

## 鈴鹿川の漁法とそれに関連する言葉

### ① 魚種別の漁法

#### a アユ

投網での漁のほか、次の漁法や呼び名を採録した。

ア 淵などの深みにいるアユを、水めがね等で見ながら、あるいは水中に潜りながら、細長い竹竿（竹の長さは1m程度）の先端につけた釣り針で引っ掛けて取る漁法。釣り針は数本の釣り針を放射状に束ねた碇（いかり）のような形をしている。

- ・ アイかき・アユかき、アユかけ、しゃくり、ひっかけ、もぐり

イ 浅瀬にいるアユを、8番線の針金（長さ1.5m～2m程度）や竹（の根）等を使い、たたいて取る漁法

- ・ しばき・アイしばき、竹たたき、たたき・アイたたき、びしゃき・アイびしゃき、びしゃこ

ウ 淵などの深みにいるアユを、水めがね等で見ながらアユヤス等で突いて取る漁法

- ・ アイつき

エ エサとなる藻類がよく生えている石の周りに縄張りをもち、他のアユが侵入すると体当たりして追い出そうとするアユの習性を利用して、釣り針のついたおとりアユ（友鮎）を泳がせて、縄張りを守ろうとぶつかってきたアユを引っ掛けて釣る漁法

- ・ 友釣り

オ 道糸の先端にオモリをつけ、間隔を少しあけ数多くのW字型の釣り針をつけた仕掛けを川に投げ入れ、竿を引き、川底を泳ぐアユを引っ掛けて釣る漁法

- ・ ごろびき、ひきずり

カ 春先に河口付近で地引網を引いて稚アユを取る漁法

- ・ アイ引き・アユ引き

キ 川に横断的に網を張りアユを取る漁法

- ・ たて網

ク 投網をしている所などで上流部に向かって逃げるアユの先回りをし、浅瀬で下流部側に足を開けてすわり、当時はいていた大きな白いパンツの中にアユが逃げ込んだところを押さえて取る子ども達の漁法。どこにでも隠れようとするアユの習性を利用したもの。

- ・ すわり

ケ 投網をしている所などでへそぐらいまでの深さの所において足の裏を川下へ向けて立て、その下に寄ってきたアユを踏み押さえて取る子ども達の漁法。どこにでも隠れようとするアユの習性を利用したもの。（名称なし）

コ アユを浅瀬に追いたてて、砂場に飛び上がらせて取る漁法（名称なし）

#### b ウナギ

ア 細短い竹の棒を竿として、釣り針にドジョウを切ったものやヨシノボリなどをエサとしてつけ、夕方に棒を岸に刺しゆるやかな流れの川や水路、又は池に仕掛け、翌朝に上げてウナギを釣る漁法。大き目の石に巻きつけ沈めておく場合や川岸の木や杭に固定しておく場合もある。池などでは延縄式にいくつかの針をつけて仕掛ける場合もある。日中は石のすき間や水底の穴に潜み、夜にエサを探しに動きまわるというウナギの習性を利用したもの。

- ・ つけ針、流し・流し針、やはず

イ 50m～100mの道糸に釣り針を延縄式につけ、川の深みに流し、ウナギを釣る漁法

- ・ ながの

ウ 竹などを細かく割って編み、入り口に漏斗状の返しがついた、一旦入るとそこから出ることができない仕組みの細長い漁具を使った漁法。エサとして、炒った糠（ぬか）、或いはタニシをつ

ぶし赤土などこね合わせ丸めたものを漁具の中に入れ、ゆるやかな流れの川や水路、又は池に石や棒で固定する。夕方に仕掛け翌朝に上げて取る。大型のウナギ用のものを使う（他に小型のドジョウ用のものがある）。

- ・ がんごじ、がんごーじ、のぞき・のぞぎ、のぞみ、のどぎ、もんどり

※ 返しがあり、一旦入ると出ることができない仕組みの漁具、及びそれを用いた漁を「地獄」と呼ぶ場合も多い。

エ 細い竹を竿として使い、釣り針に太いミミズやドジョウを切ったもの、あるいは小型のドジョウなどをエサとしてつけ、石垣の間などに入れ込み、そこにいるウナギを釣る漁法。釣り糸は竹竿の中に隠されている。

- ・ 穴釣り

オ 夏から秋の増水時に川に大きな網を入れ、川を下ってくるウナギを取る漁法

- ・ オチウナギ取り

カ 川の中に玉石で山を作り、水が引いた時などに周囲に石ぐり網を張り、石をどけてそこへ入ったウナギを取る漁法で、主に河口部で行なわれる。

- ・ 石くり・石ぐり

キ 夜に松明やカーバイトなどの灯りを持ち、梅雨時期などに水田に上がったウナギをウナギたたき（太目の竹を割り、幅 6cm 程度、長さ 1m 程度のものとし先端を少し割り、そこに長い針状のものを一列にたくさん挟み込み、木綿糸でしっかりと巻きつけたものなど）やノコギリでたたいたりして取る漁法

- ・ ウナギたたき、夜田（よた）

ク ため池の水を落とした時などに、棒の先に鉤がついたウナギを引っ掛ける漁具（「ウナギかけ」）を用いて、池のドロの中をかき回し、ウナギを引っ掛けて取る漁法

- ・ ウナギかき

ケ 鈴鹿川中流部では梅雨後の渇水期になると、よく川が枯れ表流水がなくなった。夕立などで一定量の雨が降ると、川に水が出だしその流れの先端が泡立ち、そこに川を下るウナギがよくいたため、それらをたたいたりして取る漁法

- ・ 水鼻（みずはな）

コ 節をぬいた長さ 1m 程度の太い竹筒をゆるやかな流れの川や水路、又は池に沈め、そこに入ったウナギを取る漁法

- ・ 筒（つつ）

サ 川が乾いた時に、湧水のある土の中に潜りこんでいるウナギを取る漁法（名称なし）

## c ナマズ

ア 1m 程度の細い竹などを竿とし、エサとして主に小型のカエル（集落によりドジョウ、コブナ等）を使い、専用の針（ろく針、大正針、ナマズ針）をその臀部や背に引っ掛け、水面を泳がせてナマズを釣る漁法。夕方に仕掛け早朝に上げる場合のほか、夕方にいくつか仕掛けて釣る場合もある。

- ・ ちょぼ釣り、ちょぼん釣り、とび釣り、ナマズ釣り、はね、ぴよんぴよん釣り、ぴんぴこ

## d ドジョウ

ア 四手網や専用の細長い籠のような漁具で、沼田や水路にいるドジョウを取る漁法

- ・ ドジョウすき、ドジョウすくい、ドジョウ取り

イ 水路の泥の中で、群れて越冬しているドジョウを土ごと上げて取る漁法

- ・ ドジョウ上げ、ドジョウ掘り

ウ 竹などを細かく割って編み、入り口に漏斗状の返しがついた、一旦入るとそこから出ることができない仕組みの細長い漁具を使った漁法で、田に上ってくるドジョウを取るもの。エサとして、炒った糠（ぬか）、或いはタニシをつぶし赤土などこね合わせ丸めたものを漁具の中に入れ、

夕方に水戸口などに石や棒で固定し仕掛け翌朝に上げて取る。小型のドジョウ用（長さ 40cm, 直径 15cm 程度）のものを使う。

- ・ がんごじ, がんごーじ, のぞき・のぞぎ, のぞみ, のどぎ, もんどり
- ※ 返しがあり、一旦入ると出ることができない仕組みの漁具, 及びそれを用いた漁を「地獄」と呼ぶ場合も多い。

エ 夜に田や浅い水路にいるドジョウをたたいて取る漁法

- ・ たたき・ドジョウたたき

#### e オイカワ・カワムツ

ア 冬の寒い時期に（笹下などに溜まっている）オイカワ, カワムツ等の川魚を網などで取ること

- ・ 寒バエ（取り）, 寒バヨ（取り）

イ 川の瀬でオイカワ, カワムツ等の魚を釣る漁法

- ・ 瀬釣り

#### f カマツカ

ア 冬場の暖かい日などに、4m ぐらいの長さのジョレンで川底の砂をかき、そこに潜っているカマツカを取る漁法

- ・ ホレかき

#### g フナ・コイ

ア 冬の寒い時期に（柳の下などに集まっている）フナを網などで取ること

- ・ 寒ブナ（取り）

イ 専用の円錐形の籠（「フナ籠」）を池の中に吊るし、フナを取る漁法

- ・ フナ籠

ウ 5月頃に産卵のために池などの浅瀬に来るフナやコイをヤスで突いて取る漁法

- ・ 突き取り

#### h ヨシノボリ類

ア 石の多い浅瀬で行うもので、川上側に向い八の字型に石を並べたり溝を掘り、川上側の口の狭まった所に川下向けに大きな網を構え、そこへ向かって下流部側から鎖、空き缶をつけた紐や藁束などで音を立てながら2～3人で押して行き、ヨシノボリ類を追い込んで取る漁法

- ・ イシモツ取り, イシャダ取り, イシャダン押し, カジカ押し, ギシャンババ取り

## ② 多様な魚を対象とする漁法

#### a 主として川での漁法

ア 大川などで、石を並べたりして水量が少ない川筋を変えることにより、その下流部を干上からせたり水を少なくし、深みなどにいる魚を取る漁法

- ・ 川変え（かわがえ）, 川違え（かわちがえ）, 瀬変え（せがえ）, 瀬違え（せちがえ）, せいて取る

イ 夏から秋などに松明やカンテラを持って川へウナギなどの魚を取りに行く漁法

- ・ 夜川（よかわ）

ウ 冬に川の茂み部分を長い棒で突き、驚いて出てきた魚を取る漁法

- ・ 突き出し

エ 大雨後の増水時に、濁流を避け流れの弱い所に集まっている魚を網で取る漁法

- ・ 濁りすき, 濁り取り, たもすき

オ 増水時などに行う夜の釣りで、浮きの代わりに鈴をつけてウナギ, ナマズを釣る漁法

- ・ 夜釣り
- カ 竹笹をいくつか束ねて、錘とともに川に沈め、一定時間後に笹の周囲を網で囲い、笹をどけてそこに隠れた魚を取る漁法
  - ・ 笹取り
- キ 先端に黒い布切れをつけた竹を片手で操り、魚を脅しつつ追いこみ、網で取る漁法 (名称不明)
- ク 両手を岸下の掘れ込みやじゃかごの玉石などの間に入れ、中にいる魚を素手でつかむ漁法
  - ・ 手づかみ

#### **b 細い水路や水田近くでの漁法**

- ア 細い水路や小さい池などにおいて、上流側を閉じ水が来ないようにし、下流部側の水を掻き出したりして少なくし、そこにいる魚を取る漁法
  - ・ かいどし、かいどり、川ざらえ、溝変え、溝さらえ
- イ 寒い時期に、水戸下の少し掘れ込んだ水溜りにたまった小魚を取る漁法
  - ・ どぼぐち、どんど、みとおち、みとばよ
- ウ 落差のある細い水路で、流路を絞り水落に竹で編んだ大きな籠を置き魚を取る漁法で、夕方に仕掛け翌朝に上げる。
  - ・ どぼうけ
- エ 竹などに布などを巻きつけたもので、土管の片方から押して行き、そこにいる魚を取る漁法
  - ・ どおこぎ
- オ 細い川や水路において、下流側で網を受け上流からわらを束ねたもので押して行き魚を取る漁法 (名称なし)
- カ 大小のザルで小魚を取る子ども達の漁法
  - ・ ザルすくい

#### **c ため池での漁法**

- ア ため池の水を水田用水として利用し水が少なくなった時や、その維持管理のため水を抜き掃除をしたり、水漏れがおこらないよう池底をこねたりする時などに、そこにいるコイ、フナ、ウナギなどの魚を取る漁法 (集落の娯楽のひとつとして定期的に行われた)
  - ・ 浅池こね、池こね、池さらい、池そうじ、池干し、どぬき・どおぬき
- イ ため池の水を抜き浅くなった時に、底がない大きな籠 (伏せ籠) をかぶせ、その中に入ったコイやフナ等の大型魚を取る漁法
  - ・ 伏せ籠 (ふせかご)

### **③ 専用の漁具を使う漁法**

- ア 底上げされた瓶 (びん) の底に魚の入り口となる穴が開いた透明のガラス瓶で、瓶の口には網などで蓋 (ふた) をし、中にエサとして糠を炒ったものなどを入れ、ゆるやかな流れの川や水路、又は池に一定時間沈めて、オイカワ、カワムツなどの魚を取る漁法・道具
  - ・ ちゃむせん、ちゃわんぶせ、ちゃわんむし、ちょうちん、てんぼこ、びん、びんかけ、びんこぼち、びんたん、びんつけ・びんづけ、びんぶくふせ、びんぶせ、びんむし、もんどり
- イ 杭を打ち大きな張り網を川に立て、増水時などに川を下るウナギ、ナマズなどの大型魚を取る漁法。上流側に5mを超える魚の誘導用の張り網があり、長い筒の部分には何段かの返しがあり一旦入れれば出ることができない。網の下流部側に立ち、入った都度、魚を取っていく。
  - ・ 受け網、落ち受け、地獄 (網)
- ウ 地獄網の小型のものであるが、魚の誘導用の大きな張り網のない網もんどりでもあり、主として川や水路の隅に下流向けに仕掛け、遡上してくる魚を取る漁法・漁具
  - ・ つたい、つたえ、逆さ網、逆地獄 (さかじごく)、逆もんどり (さかもんどり)、さぐり、のぼり、上り網

エ 地引網を使って魚を取る漁法

- ・ 地引網

オ 川に横断的に網を立て，引き潮時に下がってくる魚を取る漁法

- ・ たてきり

カ 幅がある長い網を寄せていって魚を取る漁法

- ・ よせ網

## 2 川魚と生活に関係した表現等

- ① メダカ
  - ・ 乳が出るようにと、生きたまま飲んだ（磯津）。
- ② ドジョウ
  - ・ 土用には白味噌に酒を入れたドジョウ汁をよく食べた（高岡）。
  - ・ ドジョウの皮を捻挫の熱取りに使っていた。（坂下）
  - ・ 「元気が出る」と言い、昔は小型ドジョウを生きたまま飲み込んだ（波木）。
- ③ ウグイ
  - ・ 「ウグイのばばくい」、「ウグイのくそくい」（食べて美味しくない）（楠地区）
- ④ コイ
  - ・ 井戸川の水を生活用水として使い、それを利用し各家でコイが飼われていた（上田）。
- ⑤ フナ
  - ・ 寿司にした（川尻）。
  - ・ 小型の寒ブナを取り、煮豆と一緒に煮て、「鮎豆」として食べた。（国府本郷）
- ⑥ モロコ
  - ・ 10月の祭用にモロコ寿司を作るため、モロコをよく取りに行った（内堀）。
  - ・ 「稲の花を食べたモロコはうまい」（東庄内）
- ⑦ ヤリタナゴ
  - ・ 「センペの腹にが」（野村・南野）
- ⑧ アユ
  - ・ 「川原にアユをやきに行く」（夜に灯りを持って川にアユを取りに行くこと）（平野）
  - ・ 昔は御幣川でアユを取り伊勢神宮に奉獻する御贄神事が行われていた（御幣川沿いの集落）。
- ⑨ ナマズ
  - ・ 「乳飲み子を持つ女性がナマズを食べると、乳がよく出る」と言い、食べさせた（内堀他）。
  - ・ 「ナマズは干して焼いて食べると精力剤になる」とされた（天神）。
- ⑩ ウナギ
  - ・ 「水鼻（へ行く）」（渇水期で川が干上がったところに夕立などの雨降り、その水が流れてくる先端部が泡立ち、そこにウナギが多くいて、それを取りに行くこと）（平野他）
  - ・ 「夏に天気が続くと冷たい水にウナギがのぼる」（西富田）
  - ・ 「ウナギがかねいる」（太くて口元が赤くなったオチウナギ）（水沢東）
- ⑪ ヤツメウナギ
  - ・ 「ヤツメウナギを食べると目が良くなる」（山辺他）
- ⑫ ドンコ
  - ・ 「ドンコツを食べると口がうまく利けなくなる」と言い、食べなかった（北小松）。
- ⑬ モクズガニ
  - ・ 「月夜ガニはベそベそ」（月が満ちていくとモクズガニはエサがとれず、甲羅が柔らかくなる）（采女）
- ⑭ イシガメ
  - ・ 「亀はマムシやヘビを食べる」と言い、亀を大切にしていた（和泉）。
  - ・ 「大きな亀には酒を飲ませ」（小野）
  - ・ ほぼ30年、同じカメが家の庭（産卵、餌取りのため）に毎年現れる（水沢野田）。
  - ・ 秋に熟して落ちた柿を食べに木の下にカメが来る（坂本他）。
  - ・ 庭にカメが卵を産みに毎年来る。その卵を狙って蛇が来る（水沢宮妻）。
- ⑮ スッポン
  - ・ 「長いこと川で遊んどると、ドッチに尻抜かれるぞ」（各地）
- ⑯ イモリ

- ・ 「イモリの黒焼きほれぐすり」(亀田)
- ⑰ サンショウウオ
- ・ 病気に効くということで、山に取りに行き、よく生きたまま飲み込んだ(野登)。
  - ・ 腹の黒いサンショウウオがいて、「薬になる」と言い、焼いて干して煎じて飲んだりした(須賀)。